

令和6年度第2回釧路市地域公共交通活性化協議会（書面会議） 結果報告書

1. 結果

全委員33名中 賛成33名、反対0名

上記のとおり賛成委員が多数であることから、釧路市地域公共交通活性化協議会規約第6条第2項の規定により、議案第1号は承認されたものとする。

2. 委員意見及び回答内容

提出日	委員名	議案第1号	意見	意見に対する事務局回答
6月25日	青柳委員	賛成	評価指標が公共交通からバスへ表記変更されたが、表11についても変更すべきではないか。 鉄道の利用者数についての目標値は別途必要ないか。 計画変更するにあたり今一度、バスと公共交通の標記変更が他にも必要ないか再確認されては如何か。	表11数値目標の測定方法についても、公共交通からバスへと表記を変更いたしました。 鉄道の利用者数に関する目標値は現在設定しておりませんが、次期計画策定の際は検討したいと考えております。
6月27日	佐藤委員	賛成	修正で目標値を上げたと言う意味では、良いのではないのでしょうか。ただ、利用者増に向けて具体策への積極性が見うけられないような気がします。 以前、協議会で「ノーマイカーデー」を決めたこともありました。また、「おでかけパス70」利用者増に伴う検証も必要ではないのでしょうか。	現計画が令和8年度までを計画期間としており、次期計画策定の際は参考とさせていただきたいと考えております。
6月27日	岸副会長	賛成	1便あたり1.3人の利用者増とありますが、何人から1.3人増加の目標でしょうか。1便あたりの利用者数が見えません。	令和8年利用者目標の1便あたり平均21人から1.3人増加の目標となります。
6月27日	宮下委員	賛成	賛成いたします。 今回の協議会の議題とは直接関係しませんが、世間的には、「少子高齢化」という言葉が安易に使われすぎていて、公共交通の運転手などの担い手が不足し、かつ利用者も減少することが想定される中での「見直し」が必要であるという理由にされがちであり、また、高齢者の自動車免許返納を進めていくという政府の方針もあるなかで、実際に道東地方で生活する住民にとっては、買い物や通院のためにますます公共交通の維持が重要になっています。 利用者の減少→バスダイヤの減少という流れが、今はバス会社の尽力もあってぎりぎりでの「見直し」となっていますが、長期的に見たときに（5年後、10年後、20年後・・・）どのように公共交通の計画を維持していけばいいのか。鉄道もそうですが、国土面積が広く人口密度が低い道東地方においては、本来はますます国からの助成があるべきだと思います（国は採算性を求めてきますが）。 避暑地や農産畜産漁業資源の供給地として、道東はますます重要な地域になっていきます。	現計画が令和8年度までを計画期間としており、次期計画策定の際は参考とさせていただきたいと考えております。